

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	子育て土壌育成事業	コード	5106
-------	-----------	-----	------

2 担当部課	部等 教育部	課等 生涯学習課	作成者 高山 理恵
--------	--------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち		
		政策	生涯学習の推進	施策	生涯学習の推進
		予算科目	子育て土壌育成事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	子どもと親が共に成長するため、地域住民や関係団体等が協力し、話し合いを行い、係りあう中で、お互いに支えあって子育てが出来る「子育て土壌づくり」の推進を図る。			
目的	対象者	乳幼児、親		
	意図	安心して子育てが出来る「子育て土壌づくり」の推進		

5 事業の実施内容		*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
<p>地域子（己）育てサポーター連絡協議会 区長から推薦された地域子（己）育てサポーターが、自らの区において地域ぐるみで子育てができる土壌づくりを行うため、サポーターが一堂に会し、情報交換や資質の向上を目指し、総会、研修会、情報交換会を実施した。</p> <p>総会 4月22日（月） 事業報告、会計報告、事業計画、予算、研修 第1回情報交換会 6月28日（金） 岡谷市地域子（己）育てサポーター連絡協議会あり方検討 第2回情報交換会 11月2日（土） 青少年健全育成県民大会への参加 第3回臨時総会 11月29日（金） あり方検討アンケート結果報告、協議、決議</p> <p>乳幼児親子ふれあいの集い 各区において、更生保護女性会役員や区役員の協力により開催した。</p>				
前年度の課題への対応	平成27年度にあり方検討を行い、平成28年度から心機一転スタートし、3年が経過した平成30年度までは、地域における役割の確認を行いながら協議会を継続してきたが、時代の流れや、区における存在意義なども含め、1年かけて再検討すべきと考え、年度当初から関係機関と調整を図りながら、協議会が検討した結果、一定の役割を終えたと判断。発展的に解散するとの合意がなされた。			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区分	29年度	30年度	元年度	2年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	地域子（己）育てミニ集会実施回数			単位	回
	実績値	427	404	335	
	*指標の説明	各地区で開催されたミニ集会回数			
② 成果指標（指標名）	地域子（己）育てミニ集会参加人数			単位	人
	目標値	20,000	20,000	20,000	7,000
	実績値	17,479	17,552	13,051	
	達成度	87.4%	87.8%	65.3%	
	*指標の説明	各地区で開催されたミニ集会回数ミニ集会に参加した人数			
*目標値の設定方法の説明	前年度実績に基づき設定				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	407,000	363,000	335,000	461,000
経常経費	407,000	363,000	335,000	461,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	1,600,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
正規職員の人数(人)	0.20	0.15	0.15	0.15
③ 合計コスト(①+②)	2,007,000	1,563,000	1,535,000	1,661,000
前年度比		77.9%	98.2%	108.2%
財源				
一般財源	2,007,000	1,563,000	1,535,000	1,661,000
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	4,700	3,869	4,582	
前年度比		82.3%	118.4%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
乳幼児親子ふれあい 事業補助金	件数	25	23	21	21
	金額	407,000	363,000	335,000	461,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	407,000	363,000	335,000	461,000
	割合	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

標準

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。		0
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。		0
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値	前年度比
	74.4%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値	達成度
	65.3%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <p>地域子(己)育てサポーター連絡協議会は、近年はマンパワー事業として実施してきたが、地区の他団体のサポートを業務と位置づけていたため、一部の区では、サポーター独自の活動もあったが、殆どが育成会活動とのカウントの重複もあった。区での認知度も低く、任期も1年で継続性に乏しかったため、協議の上、40年の歴史の幕を閉じた。地区における活動の支援は、情報提供等を通じ継続していく。</p> <p>一方、乳幼児親子ふれあいの集いは、区においても、評価されており、更生保護女性会が中心となり、活動している。子育て支援の面で、地域子(己)育てサポーター連絡協議会の事務局が無くなった今、このまま生涯学習課が補助交付先でいいか検討が必要。</p>	
	改善方法	<p>(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <p>令和元年度中に、子ども課、社会福祉課と2回協議した。その結果、令和2年度は、子ども課と連携して進めつつも、各区からの相談等を考えると、子ども課の方が一元的な対応ができるのではないかという話になった。令和3年度には、補助申請先を変更する方向で協議は終了している。ただし、今回のコロナ関連の対応は、21区にふれあいの集いが個別に活動しているため、当課で個別対応できているが、子ども課で同様の対応ができるかどうかを含め、予算編成までには方向性を出したい。</p>
改善開始時期		2020年6月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	--	---